

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月14日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・自分らしく生きる力」を育てるため、小学部から高等部までの一貫した教育活動の実践と教育課程を確立する。	①授業改善の仕組みづくりを推進し教育活動の質の向上を図る。 ②保護者に学習内容をわかりやすく示すことにより、開かれた教育課程を推進する。	①学年会等を活用し、単元計画を軸とした授業改善の仕組みづくりを推進する。また、個別教育計画の計画的な見直しを行い、内容を踏まえた授業実践を行う。 ②保護者への年間計画の提示や学年だより等により、日々の学習内容をよりわかりやすく伝える工夫を行う。	①授業改善の仕組みづくりが推進できたか。個別教育計画を計画的に見直し、授業実践を行ったか。 ②保護者へ学習内容をわかりやすく伝えることができたか。	①学部間で進捗状況は異なるものの、授業や単元の振り返りシートを活用し授業改善を実施した。個別教育計画見直し期間を活用し、子どもの実態の変化に応じて目標、手立ての見直しを図り、授業づくりや指導に活かすことができた。 ②年間指導計画の提示、各お便りの工夫(予定に単元名記載、教材写真、授業内容説明等)、動画配信(計79本)、学校見学会設定等により保護者に学習内容をより丁寧に示し、知ってもらうことができた。	①各学部の実情に合った授業改善の仕組みづくりが課題である。自立活動の視点を意識した個別教育計画作成と指導実践を進める。 ②保護者への情報発信の方法や内容についてさらに工夫し深める。	①保護者アンケート：「わかりやすい授業を行っているか」の回答が昨年と比較し、評価が下がった。AB評価を合わせた評価R4年度88%、R5年度83%。 ②学校運営協議会(以下CS)：保護者アンケートでA評価はR4年度57%から72%と大幅に評価が上がった。年間指導計画を配付した取組みが良い結果につながったと考えられる。このような手立てを日々行っていくことが大切である。	①年度途中で個別教育計画の見直しを図り、授業づくりに活かすことができた。自立活動の視点を意識した個別教育計画の作成と授業実践が課題である。 ②保護者への学習内容の情報提供は、様々な積極的な取組みにより保護者との連携が深まった。保護者のニーズに対し、丁寧に継続した情報提供を行っていくことが重要である。	①自立活動の視点を意識した個別教育計画作成や計画的な見直し、授業実践への活用を進める。単元計画を軸とした授業改善の仕組みづくりを全校的に進める。 ②保護者への学習内容の情報提供について、さらにニーズを捉えた発信を実施する。
2 児童・生徒 指導・支援	・児童・生徒一人ひとりのコミュニケーション力の向上をめざし、個々の特性に応じて、人権に配慮した指導・支援を組織的に行う。	①自分の気持ちや考えを適切に伝えることができるコミュニケーション指導、支援を行うとともに、家庭や地域でも活用できるよう情報発信を行う。 ②人権尊重の視点に立ち、専門性を発揮した指導、支援を行う。	①これまでのコミュニケーション指導について自立活動の視点で見直す。また、将来を見据え、保護者、事業所、進路先に本校の取組みや実践について情報発信を行う。 ②「さん」付け呼称の他、具体的な行動指針について確認し、学部ごとに定期的な振り返りを実施する。	①個々に合わせたコミュニケーション手段の獲得ができたか。また、家庭や地域での活用が進んだか。 ②人権に配慮した指導について学部内で定期的に確認することができたか。	①個々の実態に合わせコミュニケーションツールを活用した指導を推進するとともに、校内で実践事例動画を共有するなどの取組みによって、更に実践を広げることができた。事業所説明会で湘南支援ブランドについて説明したり家庭や実習先で学校の取組みが般化されたり地域と連携した事例が見られた。 ②適宜人権に配慮した関わりについて研修や呼び掛けを行い定期的な確認を実施した。	①湘南支援ブランドを継続的に活用できるよう、計画的な研修及び実践報告会を実施する等取り組む。保護者や事業所を対象にした研修会の実施ができるとうい。 ②教職員の言葉遣いやあいさつ等、具体的な行動指針について継続的に振り返り、確認を行う必要がある。	①保護者アンケート：「一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション指導を行っていますか」の項目でAB評価を合わせると94%となり、高い評価である。 ②保護者アンケート：昨年度と同様にAB評価を合わせて96%と良い評価が得られた。職員アンケートは、昨年より良い評価である。(A評価はR4年度34%、R5年度44%)	①湘南支援ブランドを活用した指導実践により、個々の実態に合わせたコミュニケーションツールの活用がすすみ、自発的な発信力の向上につながった。継続した取組みが重要である。事業所、家庭との連携も見られたが、今後より具体的な取組みが必要である。 ②日常的な呼びかけや研修により、人権尊重の意識は職員間で高まった。教職員の児童生徒への言葉遣いやあいさつ等の取組みについて見直し、改善する。	①湘南支援ブランドの活用についての研修会、学習会、実践報告等を継続して実施する。実施時期、回数を確保できるよう業務精選と計画的な実施を進める。事業所、保護者へ湘南支援ブランドの説明や、研修会の実施を進める。 ②人権尊重の視点で、職員自らの言動を見つめ直し、改善に向けた方針を定める。

	視点	4年間の目標 (平成2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月14日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・自立と社会参加をめざし、児童・生徒一人ひとりのニーズと適性に応じた進路指導・支援を行う。	①系統性や発達段階を意識しながら、家庭と連携し、自立と社会参加に必要な力の育成を図る。 ②保護者のニーズをとらえ、進路に関する情報提供を行うことにより、適切な進路指導につなげる。	①学部ごとにテーマを決め、学部内、学部間で指導の系統性について確認し指導を進める。 ②学部や学年ごとに進路学習会や懇談会を実施し保護者のニーズをとらえた情報提供を適宜行う。	①学部ごとのテーマに沿った指導の実践により、個々の力が身についたか。 ②保護者のニーズに沿った情報提供ができたか。	①自立と社会参加に向け、学部ごとにテーマを決めて取り組んだ。個々の実態に合わせた具体的なねらいと手立てを定め、指導実践を重ねた結果、多くの児童生徒に成果が見られた。 ②小中学部における進路情報提供は、各段階に合わせた内容を提供した。進路支援通信等の記事は、保護者のニーズを意識した情報を掲載した。中3進路指導として高等部作業見学・体験を実施した。	①社会的スキルの向上を目指した取組みは、成果が見られた。引き続き発達段階に合わせた取組みを行う。 ②児童生徒の卒業後の生活について教職員が理解を深めることが必要である。	①保護者アンケート：AB評価を合わせると94%と良い評価である。職員アンケートは、昨年より大幅に評価が上がった。(A評価R4年度16%、R5年度42%) ②CS：保護者アンケートでは一番関心の高い項目であるが、進路関係の詳細な情報は発信されている。実習等も充実して取り組めた。	①各学部でテーマ設定したことで、教職員の意識も高まり、具体的な指導実践につながった。今後も小中高の系統的な取組みとして継続していく。 ②進路情報については、学部ごとに内容を検討し、よりニーズに合った情報提供をすることができた。教員対象の進路に関する研修を実施したい。	①これまでの取組みを土台に、さらに個々に応じた自立と社会参加に向けた取組みを進める。 ②児童生徒の卒業後の生活をより具体的にイメージした上で、指導内容を整理するとともに、進路先との連携を進める。
4	地域等との協働	・共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育の推進及び障がいのある子どもの理解をすすめるため、地域との連携、協働による活動を展開する。	①居住地や地域の学校との交流及び共同学習の充実を図る。 ②地域資源の活用を通し、地域との連携および協働を充実させる。	①交流及び共同学習がより充実した内容になるよう、相手校と目的や内容を明確にして計画をすすめる。 ②地域貢献活動や地域資源を活用した教育活動をすすめる。また、ボランティア活用を再開する。	①地域の学校との交流及び共同学習がより充実した内容で実施できたか。 ②地域貢献活動や地域資源を活用した教育活動ができたか。	①居住地交流(小学部29件、中学部8件)、各学部と地域学校との学校間交流が実施された。通常級との交流が再スタートした。居住地交流実施の事例報告を学部会等で行い、教職員間で情報共有を行った。 ②新たに「平塚市役所」「ららぽーと」において作品展を実施し、地域へ情報発信を行った。高等部清掃班による近隣公民館の清掃作業が再開した。ボランティアの活用が再開し、5名登録、のべ20回以上の活動があった。	①お互いにとって良い学びとなる交流及び共同学習を目指し、ねらいを明確にし共有した上で、内容検討を進める。 ②インクルーシブハブ湘南(平塚市4校特別支援学校及び一企業との連携事業)の活用により、地域資源を活用した教育活動を進める。	①保護者アンケート：AB評価合わせるとR4年度81%、R5年度90%と評価が上がった。 ②CS：切れ目ない支援部会で公開した動画は、多少古い情報でも役に立つと思うので、期間限定にせず、配信すると良い。	①学校間交流においては、各学部とも通常級との児童生徒との交流及び共同学習を実施し、取組みが進んだ。より共同学習の側面を意識した取組みとなるよう計画していくことが課題である。 ②作品展は新規開催場所の開拓を行い、より多くの人に見てもらえる機会を得ることができた。ボランティア活用再開により教育活動の充実につながった。インクルーシブ湘南による地域資源を活用した教育活動を進めたい。	①今年度の取組みを参考にしながら、教科等のねらいを明確にした共同学習にも焦点をあてた計画を立て実施する。 ②インクルーシブ湘南との連携は、教育活動の充実を図ることを主なねらいとして取り組む。
5	学校管理 学校運営	・安心・安全な学校づくりの推進のため、危機管理体制の確立を図る。 ・教職員の専門性の向上及び不祥事の未然防止を図る。	①各マニュアル、ガイドラインの活用しやすい整備方法について検討、実施する。 ②速やかな報告・連絡・相談を徹底し、事故・不祥事防止の意識を高める。	①各マニュアルやガイドラインの整備する場所、整備方法を整える。また、必要に応じて柔軟に見直す。 ②ヒヤリ・ハット報告を迅速に全職員で共有できる仕組みを整理する。9月、1月に振り返りとその後の検証を行う。また、防犯と職責意識の向上のため、名札着用を徹底する。	①各マニュアル、ガイドラインが整備され、活用できたか。 ②ヒヤリ・ハット事案を定期的振り返り、事故・不祥事が防止できたか。また、名札着用が徹底できたか。	①各マニュアル、ガイドラインを適宜見直し、改訂を図った。さらに、各職員室に整備し、いつでも活用できるよう全職員へ周知した。 ②ヒヤリ・ハットの速やかな報告から防止策の検討、情報共有の流れは定着しつつあるが、情報共有が不十分であったり、報告が遅れたりしたケースがあった。名札着用は習慣化が進んだ。	①安全・防災に関する地域との連携が必要である。 ②不祥事防止に関する職員の意識向上と未然防止のための定期的な研修が必要である。	①保護者アンケート：95%が良い評価である。CS：地域防災訓練には今後も参加してもらいたい。 ②保護者アンケート：89%が良い評価である。	①各マニュアル、ガイドライン見直し、改訂を実施。職員室の整理整頓を進め、マニュアルの保管場所を整備し、職員へ周知することができた。 ②ヒヤリ・ハット報告の仕組みは定着が進んだ。速やかな報告・連絡・相談について、学校全体で意識を持って事故防止等に取り組む必要がある。名札着用は引き続き取り組む。	①より分かりやすいマニュアル作成を進める。安全・防災に関する地域との連携を防災安全部会において検討を進める。 ②ヒヤリ・ハット報告において確認された改善策について、実施できているか確認をする。来校者の名札着用の呼びかけと声掛けを行う。